

巡回展「WHO ARE WE 観察と発見の生物学」
国立科学博物館収蔵庫コレクション | Vol.01 哺乳類」展示概要



■概要

本展は、その収蔵庫の中から世界屈指の大型哺乳類剥製コレクションとして知られる「ヨシモトコレクション」を中心に、選りすぐりの哺乳類などの標本を日本各地の博物館等で展示することを目的に制作した巡回展示です。

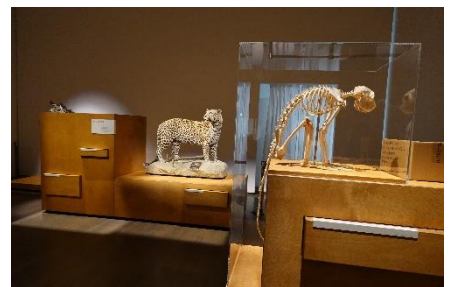
テーマは「観察の眼、発見の芽」です。“声なき標本たち”の姿を通して、見つめる眼（観察）と見つける眼（発見）を育み、他の動物との意外な共通点、私たちの日常とのつながりなど、標本にまつわる学びや問いを発見することができる展示となっています。

■ヨシモトコレクションとは？

1946年から1995年にかけて世界中からハンティングによって得られた標本群です。ハワイ・オアフ島のW.T.ヨシモト財団より、国立科学博物館へ寄贈されました。哺乳類・鳥類・爬虫類の標本412点からなり、多くは全身が剥製として残されていて、現在では調査が困難な地域の標本も多数含まれており、きわめて学術的価値の高いものです。

■「発見の体験」をする展示

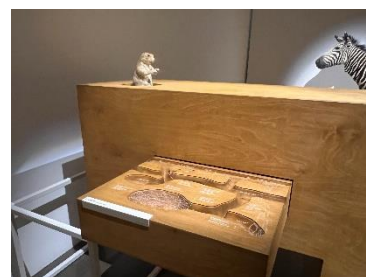
まっさらな視点で観察をしてもらうため、あえて剥製の周辺には情報を置いていません。剥製だからできる観察、剥製だから生まれる発見を通して、自分なりの気づきが浮かび上がるかもしれません。



■見どころ

剥製標本 : アルガリ、ヒョウ、アダックス、カナダオオヤマネコなど
ヨシモトコレクションの剥製 12 体

引き出しのテーマ例：ぐるにょろつん（角の観察）、どどっとドット（水玉模様の観察）、
1/1 模型（モグラの巣の観察）



■開催実績

・大分県立美術館

2021年7月22日（木・祝）～9月12日（日）【53日間】

来場者数：11,000人

・国立科学博物館

2022年8月5日（金）～10月10日（月・祝）【63日間】

来場者数：150,000人

・金沢 21 世紀美術館

2023年1月27日（金）～2月8日（水）【11日間】

来場者数：9,000人

・京都市勧業館 みやこめっせ こども科学博 2023

2023年8月4日（金）～2023年8月6日（日）【3日間】

来場者数：5,900人

<参考>

○巡回展「WHO ARE WE 観察と発見の生物学」ポータルサイト

<https://www.kahaku.go.jp/renkei/whoarewe/>



QRコード

○国立科学博物館 開催時のホームページ

<https://www.kahaku.go.jp/event/2022/08whoarewe/>

○国立科学博物館 開催時の VR ページ

<https://my.matterport.com/show/?m=AghhBWsfAW>

■その他

ご不明点がございましたら、下記までお問い合わせください。

巡回展「WHO ARE WE 観察と発見の生物学」の貸出に関するお問合せ

国立科学博物館 科学系博物館イノベーションセンター 展示開発担当

電話：03-5814-9808

E-mail : junkaiten@kahaku.go.jp